

SDGs未来都市等進捗評価シート

2020年度選定

京都府 亀岡市

2021年9月

SDGs未来都市計画名

自治体SDGsモデル事業

亀岡市SDGs未来都市計画

「かめおか霧の芸術祭」×X（かけるエックス）
～持続可能性を生み出すイノベーションハブ～

1. 全体計画（2030年のあるべき姿）

(1) 計画タイトル

亀岡市SDGs未来都市計画「かめおか霧の芸術祭」× X（かけるエックス）～持続可能性を生み出すイノベーションハブ～

(2) 2030年のあるべき姿

ピンチをチャンスに。地域経済、農業及び環境分野をはじめ地域課題に積極的に挑戦し、複数の領域をつなげ、持続可能なエコシステムを創り出す。亀岡市に対するネガティブなイメージの象徴であった霧を、地域固有の魅力へと変えてきたように、地域課題の解決に向けた取組みそのものをテーマとする「かめおか霧の芸術祭」（後述の自治体 SDG sモデル事業）を通じて、ヒト・モノ・カネのあらゆる資源をつなぎ、イノベーションが湧いてくるまちとする。

(3) 2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール



(4) 2030年のあるべき姿の実現に向けた取組の達成状況

No	指標名 ※[]内はゴール・ターゲット番号	当初値	2020年（現状値）	2030年（目標値）	達成度（%）
1	京都スタジアムにおけるデジタル・テクノロジー領域でイノベーションを創発するプロジェクト数【8.2,9.2】	2020年1月 ー 件	2020年度 0 件	2030年 20 件	0%
2	亀岡駅北口周辺の公園・緑地等整備面積【11.7】	2018年度 2 ha	2020年度 11 ha	2030年 26 ha	37%
3	芸術家や起業家などの移住者数【8.3,11.3】	2018年度 2 組	2020年度 7 組	2030年 20 組	27%
4	新規起業数【8.3,11.3】	2018年度 7 事業者	2020年度 14 事業者	2030年 100 事業者	7%
5	JR亀岡駅半径750m圏内での空店舗数【8.3,11.3】	2019年10月 25 店舗	2020年度 17 店舗	2030年 0 店舗	32%
6	市内の商業者数【8.3,11.3】	2016年 605 事業者	2020年度 605 事業者	2030年 709 事業者	0%
7	エネルギーの地産地消率【7.2】	2020年1月 60 %	2020年度 60 %	2030年（度） 70 %	0%
8	公共施設・事業所への電力供給契約件数【7.2】	2020年1月 50 件	2020年度 63 件	2030年（度） 100 件	26%
9	自家消費への電力供給契約件数【7.2】	2020年1月 0 件 ※亀岡ふるさとエナジー調べ	2020年度 0 件	2030年 10 件	0%
10	再生利用が可能な荒廃農地【2.4,8.9,11.7】	2019年 55,831 m ²	2020年度 63,201 m ²	2030年 55,831 m ²	88%
11	直売所数【2.4,8.9,11.7】	2019年 20.0 組織	2020年度 20 組織	2030年 25.0 組織	0%

1. 全体計画（2030年のあるべき姿）

No	指標名 ※[]内はゴール・ターゲット番号	当初値	2020年（現状値）	2030年（目標値）	達成度（%）
12	日常における直売所利用率 【2.4,8.9,11.7】	2019年 46.0 % ※直売所利用率は、総合地球環境学研調べ	2020年度 57 %	2030年 50.0 %	275%
13	新規就農者数【2.4,8.9,11.7】	2020年2月 70 人	2020年度 73 人	2030年 120 人（累計）	6%
14	既存集落まちづくり区域指定制度の許可件数【2.4,8.9,11.7】	2020年2月 2 件	2020年度 5 件（累計）	2030年 50 件（累計）	6%
15	農業産出額【2.4,8.9,11.7】	2017年 63 億円	2019年 57 億円	2030年 70 億円	-14%
16	プラスチックごみの排出量 【8.4,12.4,12.5,14.1】	2018年度 810 トン	2020年度 876 トン	2030年 654 トン ※使い捨てではないプラスチックごみを想定	-42%
17	プラスチックごみの回収率 【8.4,12.4,12.5,14.1】	2018年度 100 %	2020年度 100 %	2030年（度） 100 %	100%
18	ごみの資源化率【8.4,12.4,12.5】	2018年度 16.59 %	2020年度 16.69 %	2027年（度） 20.5 %	2%
19	ごみの最終処分量 【8.4,12.4,12.5】	2018年度 25,062 トン	2020年度 24,815 トン	2027年（度） 20,610 トン	5%
20	ごみの処理にかかる直接費用 【8.4,12.4,12.5】	2018年度 851,674 千円	2020年度 1,018,046 千円	2027年（度） 758,923 千円	-179%
21	環境啓発イベントへの参加人数 【12.8,17.17】	2018年度 1,200 人（のべ）	2020年度 7,980 人（のべ）	2030年（度） 12,000 人（のべ）	62%
22	環境パートナーシップ提携企業数 （協定締結またはHP掲載） 【12.8,17.17】	2020年1月 33 社	2020年度 46 社	2030年（度） 200 社	7%
23	エネルギーの地産地消率（再掲） 【7.2】	2020年1月 60 %	2020年度 60 %	2030年（度） 70 %	0%
24	公共施設・事業所への電力供給契約件数（再掲）【7.2】	2020年1月 50 件	2020年度 63 件	2030年（度） 100 件	26%
25	自家消費への電力供給契約件数（再掲）【7.2】	2020年1月 0 件	2020年度 0 件	2030年 10 件	0%

1. 全体計画（2030年のあるべき姿）

（5）「2030年のあるべき姿の実現へ向けた取組の達成状況」を踏まえた進捗状況や課題等

全体の達成状況として、概ね予定通り進捗しております。一部未達成の指標がありますが、以下の通り対策を考えております。

1.「京都スタジアムにおけるデジタル・テクノロジー領域でイノベーションを創発するプロジェクト数」については、「サンガスタジアム・イノベーション・フィールド実証支援事業」によって達成に向けた取組を進めているところであり、事業初年度である2021年については10事業程度が行われる予定です。

9.「自家消費への電力供給契約件数」については、2021年6月時点で1件該当のため順調であるが、さらなる事業の周知を図る必要があります。

15.「農業算出額」については、農業従事者の高齢化等により産出額が減る傾向にあり、この傾向は本市だけでなく、京都府内の多くの市町村に見られる状況です。農業従事者や農地面積が減少する中で有機野菜等の高付加価値農産物の栽培強化を図ることで、産出額の増加を目指します。

16.「プラスチックごみの排出量」については、ごみの排出総量は減っているなかで、プラスチックごみの排出量が増えていることから、分別意識が高まっているためと分析している。プラスチックごみの排出量を減らすため、今後排出抑制に向けた啓発等を行います。

19・20.「ごみの最終処分量、処理にかかる直接費用」ごみ処分施設の修繕を行ったことに伴い、ごみ処理に係る直接経費が増えた。ごみの再資源化を推進し、ごみの減量化を図り、施設の維持に係る経費負担を減らしていきます。

1. 全体計画（自治体SDGsの推進に資する取組）：計画期間2020年～2022年

(1) 自治体SDGsの推進に資する取組の達成状況

No	取組名	指標名	当初値	2018年実績	2019年実績	2020年実績	2022年目標値	達成度(%)
1	発信と拠点設置による起業とイノベーションの誘発	フライバッグ（亀岡発のアップサイクル製品）生産数	2019年10月 200 個			2020年度 4,187 個	2022年度 50,000 個	8%
		JR亀岡駅周辺城下町エリアの活用店舗数	2020年2月 6 店舗			2020年度 11 店舗	2022年度 20 店舗	35%
		新規起業数	2018年 7 事業者			2020年度 14 事業者	2022年 30 事業者 (現在からの累計)	30%
		デジタル・テクノロジー領域でイノベーションを創発するプロジェクト数	2020年2月 - 件			2020年度 0 件	2022年度 3 件	0%
2	アナログとテクノロジー両面による農業の展開	新規の農業体験プログラムによる交流人口	2020年2月 500 人 (のべ)			2020年度 3,652 人 (のべ)	2022年 4,500 人 (のべ)	78%
		有機JAS認証者数	2020年 6 人			2020年度 6 人	2022年 20 人	0%
		農家とタイアップした飲食店数	2020年2月 - 人			2020年度 3 社	2022年 10 社	30%
		企業とタイアップした加工品製造数	2019年 3 品			2020年度 6 品	2022年 現在より3品増加 品	100%
		給食における食糧自給率	2018年 49.8 %			2020年度 60.9 %	2022年 60 %	108%
3	プラごみゼロに向けた国内先導的な環境事業	国内初のプラスチック製レジ袋提供禁止条例の制定と施行	2020年1月 条例案作成			2021年1月 施行	2022年 施行	100%
		市民のエコバッグ持参率	2019年12月 82.2 % ※レジ袋有料化協定店舗によるセコタリング調査			2020年度 98 %	2022年 95 %	123%
		市内大規模イベントでのリユース食器使用率	2020年2月 60 %			2020年度 100 %	2022年 100 %	100%
		エコウォーカー（参加型ごみ拾い）への参加市民者数	2020年2月 0 人 (3月募集開始)			2020年度 191 人	2022年 1,000 人	19%
		リバーフレンドリーレストラン登録店舗数	2020年2月 0 店舗			2020年度 7 店舗	2022年 30 店舗	23%

1. 全体計画（自治体SDGsの推進に資する取組）：計画期間2020年～2022年

No	取組名	指標名	当初値	2018年実績	2019年実績	2020年実績	2022年目標値	達成度(%)
3	プラゴミゼロに向けた国内先導的な環境事業	市民のマイボトル持参率	2020年2月 53%			2021年9月 調査予定 %	2022年 70%	—
		リフィルステーション設置数	2020年2月 29	箇所 ※My Mizu登録数		2020年度 62 箇所	2022年 100 箇所	46%

(2) 自律的好循環の形成へ向けた制度の構築等

- ・廃棄予定のパラグライダー生地等を使用したフライバック（＝HOZUBAG）を製品化するため、法人を新たに設立し、市内に拠点を設けて生地の生産を行っています。
- ・（一社）Foginが事業推進主体となり、芸術祭との連携を図りながら、亀岡の「芸術家」を巻き込んだ観光プロダクトを創出し、地域観光プロジェクトである「Harvest Journey Kameoka」を推進します。
- ・有機JAS認証者数の増加に向けて、認証取得に関する補助制度を令和3年度からスタートさせた。認証自体は毎年度審査が必要となるが、初期の認証取得を支援することで、有機JAS取得のハードルを下げています。

(3) 「自治体SDGsの推進に資する取組の達成状況」を踏まえた進捗状況や課題等

以下の通り、2021年に着手する事業もありますが、概ね計画通り進捗しております。

No.1「京都スタジアムにおけるデジタル・テクノロジー領域でイノベーションを創発するプロジェクト数」については、「サンガスタジアム・イノベーション・フィールド実証支援事業」によって達成に向けた取組を進めているところであり、事業初年度である2021年については10事業程度行う予定です。

No.2「有機JAS認証者」については、市の支援策が令和3年度からの実施となっていることもあり、令和2（2020）年度においては増加が見られませんでした。

No.3「市民のマイボトルの持参率」2021年9月に調査を行います。

(4) 有識者からの取組に対する評価

- ・芸術家をテコに、SDGs計画を組み立てたことは非常にユニークであると評価できる。移住人数も13人となり成果を上げている。社会課題を芸術家と一緒に解決する視点は非常に斬新であると思料する。また、芸術家は亀岡市に住みながら近隣の京都市で働くこともでき、今後が楽しみである。
- ・プラスチックバックやそのごみの削減から、プラスチックゴミ自体の削減へと展開してきていると思われるが、さらなる一歩も期待する。
- ・行政とアートとの連携については、アドホックな大学との協定に基づく協力、アーティストの移住、フライバックの製造と着実に展開してきていると思料する。また、アートを活かしたプラスチック問題の意識化も面白いと思料する。
- ・市役所にできた、開かれたアトリエに関してうまく可視化されており、デザイナーが力を発揮している。アカデミーがついていることも評価され、今後行政がアーティストと市民の橋渡し役となり、上手くマネジメントすることでより大きい渦になることが期待できる。
- ・指標として、メディアの登場回数は少ない方が良いのか、多い方が良いのか。ポジティブな意味で指標を設定しているのであれば、指標の目標値を見直す必要があるのではないか。現状だと登場回数が増えるほど達成度が低くなってしまっている。
- ・芸術家の移住やイベント開催が契機となって社会・経済・環境面で効果が広がっている事例が紹介されており、こうした方向が維持・発展されることを期待する。また、こうした効果が見出された背景などを良く分析してその経験を蓄積していくことが重要である。

2. 自治体SDGsモデル事業

(1) モデル事業又は取組名

「かめおか霧の芸術祭」× X (かけるエクス) ～持続可能性を生み出すイノベーションハブ～

(2) モデル事業又は取組の概要

農業、観光及び環境といった地域資源の見える化、知の共有及び相乗効果の創出による課題解決を活動テーマとする「かめおか霧の芸術祭」をハブに、行政とアーティストらが協働して分野横断的に人々をつなぎ、循環的な経済圏や新陳代謝のあるコミュニティを形成し、課題＝テーマが多くある地域こそ地方創生を実現する。

(3) 三側面ごとの取組の達成状況

取組名	取組内容	指標名	当初値	2020年実績	2022年目標値	達成度(%)
【経済】 亀岡ならではの地場 産品や体験を市内 外の客に販売する 「マーケット／導線」 の育成	亀岡ならではのモノ（地産地消）とコト（体験）など、生活を豊かにする技術や体験を市内外に発信するマーケットを育成する取組。2020年は「会いにくるマルシェ」として、移動型で実施した。	KIRI マルシェの年間売上総額	2020年2月 370万円	2020年度 51万円	2022年度 650万円	7%
		KIRI マルシェへの参加事業者数	2020年2月 90事業者	2020年度 34事業者	2022年度 120事業者	28%
①-1 アートマーケット（KIRIマルシェ等）の開催及び「まちなか」プロジェクト	城下町エリアを歩いて巡る芸術祭を実施。企画展示やワークショップ、作品販売などを開催。	空店舗を活用する「まちなか」プロジェクトの参加事業者数	2020年2月 -事業者	2020年度 12事業者	2022年度 5事業者	240%
①-2 KAMEOKA FLY BAG Projectの事業化	使われなくなったパラグライダーの生地を利用してバッグを製作。「環境×芸術×経済」の持続可能な環境を促すと共に、福祉の雇用に繋げる。	フライバッグの年間販売総額	2020年2月 -億円	2020年度 7,331千円	2022年度 2億円	3%
①-3 「Harvest Journey Kameoka」プロジェクトとの連携による交流人口の取り込み	・霧の亀岡 Harvest Journey ツアー	「Harvest Journey Kameoka」プロジェクトの年間売上総額	2020年2月 -万円	2020年度 77,200円	2022年 800万円	0%
		「Harvest Journey Kameoka」プロジェクトの参加客数	2020年2月 -人	2020年度 101人	2022年 400人	25%

2. 自治体SDGsモデル事業

取組名	取組内容	指標名	当初値	2020年実績	2022年目標値	達成度(%)	
【社会】 交流の拠点づくりとブランド化による新陳代謝のある農業コミュニティの実現	移動式屋台「やおやおや」を活用したイベント実施	やおやおやへの年間参加事業者数	2020年2月 12 事業者 (のべ)	2020年度 41 事業者	2022年度 125 事業者 (のべ)	25%	
	移動式屋台「やおやおや」を活用したイベント実施	やおやおやへの年間参加者数	2020年2月 500 人 (のべ)	2020年度 ### 人 (のべ)	2022年度 4,250 人	84%	
	②-1 やおやおや (農業の魅力発掘と農家と消費者の交流の拠点づくり) プロジェクト	新規就農者への就農支援、相談対応等	新規就農者数	2020年2月 70 人	2020年度 73 人	2022年 85 人 (累計)	20%
	②-2 小屋から見える新たな風景とダーチャプロジェクト	芸術祭の開催場所としての直売所提供	芸術祭と提携する市内の直売所数	2020年2月 - 箇所	2020年度 4 箇所	2022年 2 箇所	200%
	②-3 亀岡産野菜の高付加価値化	「霧の亀岡 Harvest Journeys ツアー	「 Harvest Journey Kameoka 」プロジェクトの農業プログラム体験者数	2020年2月 - 人	2020年度 6 人	2022年 200 人	3%
	②-4 知の共有 (KIRI WISDOM、KIRI ² 芸術大学、小学校教育プロジェクト等)	有機JAS認証取得支援事業等の事業検討	有機 JAS 認証者数	2020年 6 人	2020年度 6 人	2022年 20 人	0%
		HACCP導入に向けての検討	HACCP 認証の取得	2019 年 検討開始	2020 年度 検討中	2022 年 導入済	-%

2. 自治体SDGsモデル事業

取組名	取組内容	指標名	当初値	2020年実績	2022年目標値	達成度(%)	
【環境】 市民一人ひとりに伝わる 「プラごみゼロ」施策の実行と発信	プラごみゼロの理念にかなうサービス・取組、製品などの価値を発信する。	環境ブランドマークの使用団体／企業／製品数	2020年5月1日 団体企業	2020年度 11団体6企業	2022年 50団体・企業	25%	
	環境先進都市の実現を目指す市の取組に対し、企業サイドからも賛同事業を行い、官民が面的な施策発信を行う。	パートナーシップ企業数（協定締結またはHP掲載）	2020年3月 33社	2020年度 46社	2022年 70社	35%	
	③-1 「プラごみゼロ」具体化事業とアートとの接続	イベントを通し参加者が地域の豊かさに気付き、消費するだけでなく、豊かさの基盤となる環境を守る各種取組に参加することを促す。	官民主催の環境啓発イベントへの参加人数	2018年度 1,200人	2020年度 780人	2022年 (2020年からの累積) 4,000人	19%
	③-2 亀岡発の「プラごみゼロ環境ブランド」認定制度とサイン表示	買い物時のマイバッグの使用率を高めるように啓発していく。	市民のマイバッグ持参率（再掲）	2019年12月 82.2%	2020年度 98%	2022年 95%	123%
	③-3 シンポジウム	給水スポットの整備などを行うことにより、マイボトルの使用について啓発していく。	市民のマイボトル持参率（再掲）	2020年2月 53%	2021年9月 調査予定 %	2022年 70%	-

(4) 「三側面ごとの取組の達成状況」を踏まえた進捗状況や課題等

- ・「KIRI マルシェ」の年間売上総額および参加事業者数」新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、移動型でマルシェを開催したため、出店者数および参加者が限られ、それにより売上総額も目標値に及びませんでした。R3年度はSDGs推進拠点「開かれたアトリエ」を活用しながら、定期的なマルシェ開催を目指します。
- ・「Harvest Journey Kameoka」新型コロナウイルス感染症の影響によりプロジェクト参加者数等が大幅に減少しました。現在、新型コロナウイルス感染症の影響により市内イベントやの実施等が難しくなっているため、アフターコロナを見据えた事業を熟考し、展開します。
- ・「新規就農者数」については、新型コロナウイルスの影響により就農希望者数が減少し、受入体制が整いませんでした。感染予防対策が整いつつあることから、京都府等と連携し、積極的な受入を行うことで新規就農者数の増加を図ります。
- ・「官民主催の環境啓発イベントへの参加人数」コロナ禍により、イベントが減少しているため、感染症が落ち着けば参加者が増加する見込みです。

2. 自治体SDGsモデル事業（三側面をつなぐ統合的取組）

(1) 三側面をつなぐ統合的取組名

芸術祭のイノベーションハブとなる「開かれたアトリエ」整備とプラットフォーム機能強化

(2) 三側面をつなぐ統合的取組の概要

行政とアーティストとが協働で地域資源をリサーチし、分野横断的に人々をつなぎ、循環的な経済圏や新陳代謝のあるコミュニティを創り出す。アーティストが活動を魅せ、人々がその活動に関わることができる「開かれたアトリエ」を整備することにより、関係人口の交流やイノベーションを促し、各事業の運動を加速させていく。

(3) 三側面をつなぐ統合的取組による相乗効果

経済⇔環境	経済⇔社会	社会⇔環境
<p>オンライン通販による自宅ショッピングやプラスチックの過剰包装に代表される消費社会とは一線を画す「人の顔が見え、品物を手渡す」アートマーケット（KIRI マルシェ）やフライバックのような環境に配慮したもののづくりを進めることで、消費者・事業者が共通理解のもと、過剰なプラスチック容器包装の削減に取り組む地域社会を作ります。また、地域の魅力（コトやモノ）を存分に扱う KIRI マルシェを導線として、消費者が地域の豊かさに気付き、消費するだけでなく、その豊かさの基盤たる環境を守る各種取組みに参加することを促します。</p> <p>亀岡発のアップサイクル「HOZU BAG」の製造拠点を整備し、そこで新たに5人の就労を確保しました。また、京都市に近く、自然に囲まれた「トカイナカ」を求め、芸術家13人が移住しました。今後も「かめおか霧の芸術祭」による文化芸術の振興を通して、多くの芸術家や参加者と交流しながら、経済活性化や移住・定住者増加を目指します。</p>	<p>新型コロナウイルスの影響もあり、消費者と農家の間のつながりを生むためのイベント実施に大きな制限があり、数値での効果はまだ表れていないが、これまでの既存イベントや販売チャンネルとは異なる消費者層（芸術への関心が強い方や若年層など）とのつながりがモデル事業を通じて生まれつつあり、今後の展開が期待できる。</p> <p>また、モデル事業により創出した「開かれたアトリエ」を活用した新規就農者向けの勉強会などの企画も、2021年度から開始していることから、消費者との接点の増加、地産地消の推進等の地域活性化につながっていくものと考えます。</p>	<p>環境ブランドマークを使用する農家の数については増加していないが、環境負荷の低い有機農業を進める気運が市内では高まりつつあります。市内の保育所3園の給食に有機野菜を提供する取り組みがスタートしたほか、有機JAS認証取得支援制度の創設、民間での有機米栽培プロジェクトへのサポートなど行政だけではなく、民間での取り組みも始まっており、農業を通じた環境先進都市へ寄与する動きが活性化しつつあります。</p> <p>「Harvest Journey Kameoka」では、zoomやFacebookライブを活用した「お茶」に関わるゲストとのトークイベントや「かたもとオーガニックファーム」の見学ツアー等を実施。亀岡市の自然や食文化に触れることで、消費者と市内事業者のコミュニケーションを図る機会を生み出しました。</p>

(4) 三側面をつなぐ統合的取組の達成状況

No	指標名	当初値	2018年実績	2019年実績	2020年実績	2022年目標値	達成度(%)
1	【経済→環境】プラスチック製容器包装の削減に取り組む事業者数	2020年2月 ー 社			2020年度 12 社	2022年 50 社(年間)	24%
2	【経済→環境】KIRI マルシェ参画を通じて、ふるさと亀岡の環境(地域の魅力)を守る取組みに参加した者の数	2020年2月 ー 人(累計)			2020年度 40 人(累計)	2022年 100 人(累計)	40%
3	【環境→経済】亀岡発のアップサイクル製品による被雇用者数	2020年2月 0 人			2020年度 5 人	2022年 6 人	83%
4	【環境→経済】環境にイノベーションをもたらす企業の立地数	2020年2月 1 社			2020年度 2 社	2022年 3 社	50%
5	【環境→経済】本市の環境政策に関する年間メディア報道回数	2020年2月 26 回(テレビ)			2020年度 16 回(テレビ)	2022年 10 回(テレビ)	62%
6	【環境→経済】本市の環境政策に関する年間メディア報道回数	2020年2月 170 回(新聞)			2020年度 86 回(新聞)	2022年 50 回(新聞)	70%
7	【経済→社会】芸術祭の経済的活動に参画する新規就農者数	2020年2月 7 人			2020年度 9 人	2022年 40 人(累計)	6%
8	【経済→社会】芸術祭を通じて市内直売所や消費者、農家とのつながりができたことを実感する農家数(アンケート調査)	2020年2月 ー 人			2020年度 ー 人	2022年 30 人	ー
9	【社会→経済】芸術祭を通じて移住した新規就農者数	2020年2月 0 人			2020年度 0 人	2022年 5 人	0%
10	【社会→経済】市内に移住した芸術家数	2020年2月 5 人			2020年度 13 人	2022年 10 人(累計)	160%
11	【社会→経済】日常生活において亀岡産農産物を意識して購入する消費者の数(アンケート調査)	2019年8月 55 %			2020年度 ー %	2022年 65 %	ー
12	【環境→社会】【社会→環境】亀岡発の環境ブランドマークを使用する農家の数	2020年2月 0 人			2020年度 0 人	2022年 5 人	0%

2. 自治体SDGsモデル事業（三側面をつなぐ統合的取組）

(5) 自律的好循環の形成に向けた取組状況

- ・使い捨てプラスチック削減に向けて取り組む市内事業者を「リバーフレンドリーレストラン」として認定し、市が積極的に広報支援するなど参加店のメリットを設けることで、誰でも分かりやすい事業者参加型の仕組みをつくり、プラごみゼロ実現へ向けた環境意識の醸成を図っています。
- ・廃棄予定のパラグライダー生地等を使用したフライバッグ（＝HOZUBAG）を製品化するため、法人を新たに設立し、市内に拠点を設けて生地の生産を行っています。

(6) 「三側面をつなぐ統合的取組の達成状況」を踏まえた進捗状況や課題等

- 7.「芸術祭の経済的活動に参画する新規就農者数」は達成度が低い結果となりました。新型コロナウイルスの影響で芸術祭の活動自体が大きな制約を受けたことが大きな要因となっています。今後は、新型コロナウイルスの感染状況を見ながら、感染が拡大しないよう予防対策を十分に行いながら経済的活動の充実も図ります。
- 8.及び11については、アンケート調査が未実施のため、達成状況は不明です。
- 12.「亀岡発の環境ブランドマークを使用する農家の数」は実績が出ていないが、今後取り組みを行います。

(7) 有識者からの取組に対する評価

- ・芸術家をテコに、SDGs計画を組み立てたことは非常にユニークであると評価できる。移住人数も13人となり成果を上げている。社会課題を芸術家と一緒に解決する視点は非常に斬新であると思料する。また、芸術家は亀岡市に住みながら近隣の京都市で働くこともでき、今後が楽しみである。
- ・プラスチックバックやそのごみの削減から、プラスチックゴミ自体の削減へと展開してきていると思われるが、さらなる一歩も期待する。
- ・行政とアートとの連携については、アドホックな大学との協定に基づく協力、アーティストの移住、フライバックの製造と着実に展開してきていると思料する。また、アートを活かしたプラスチック問題の意識化も面白いと思料する。
- ・市役所にできた、開かれたアトリエに関してうまく可視化されており、デザイナーが力を発揮している。アカデミーがついていることも評価され、今後行政がアーティストと市民の橋渡し役となり、上手くマネジメントすることでより大きい渦になることが期待できる。
- ・指標として、メディアの登場回数は少ない方が良いのか、多い方が良いのか。ポジティブな意味で指標を設定しているのであれば、指標の目標値を見直す必要があるのではないか。現状だと登場回数が増えるほど達成度が低くなってしまっている。
- ・芸術家の移住やイベント開催が契機となって社会・経済・環境面で効果が広がっている事例が紹介されており、こうした方向が維持・発展されることを期待する。また、こうした効果が見出された背景などを良く分析してその経験を蓄積していくことが重要である。